

カルチャー放談 at 静岡

ライター・ミュージシャン・古本屋店主のコメカ氏と、ライター・DJのパンス氏による批評ユニット「TVOD」、文芸批評家の川口好美氏(川根本町在住)、文芸・音楽批評家であり国語教員の矢野利裕氏の4名を迎えたトークセッション。

日 時

2026年2月21日(土) 17:00~19:00

会 場

駿河生涯学習センター 302活動室

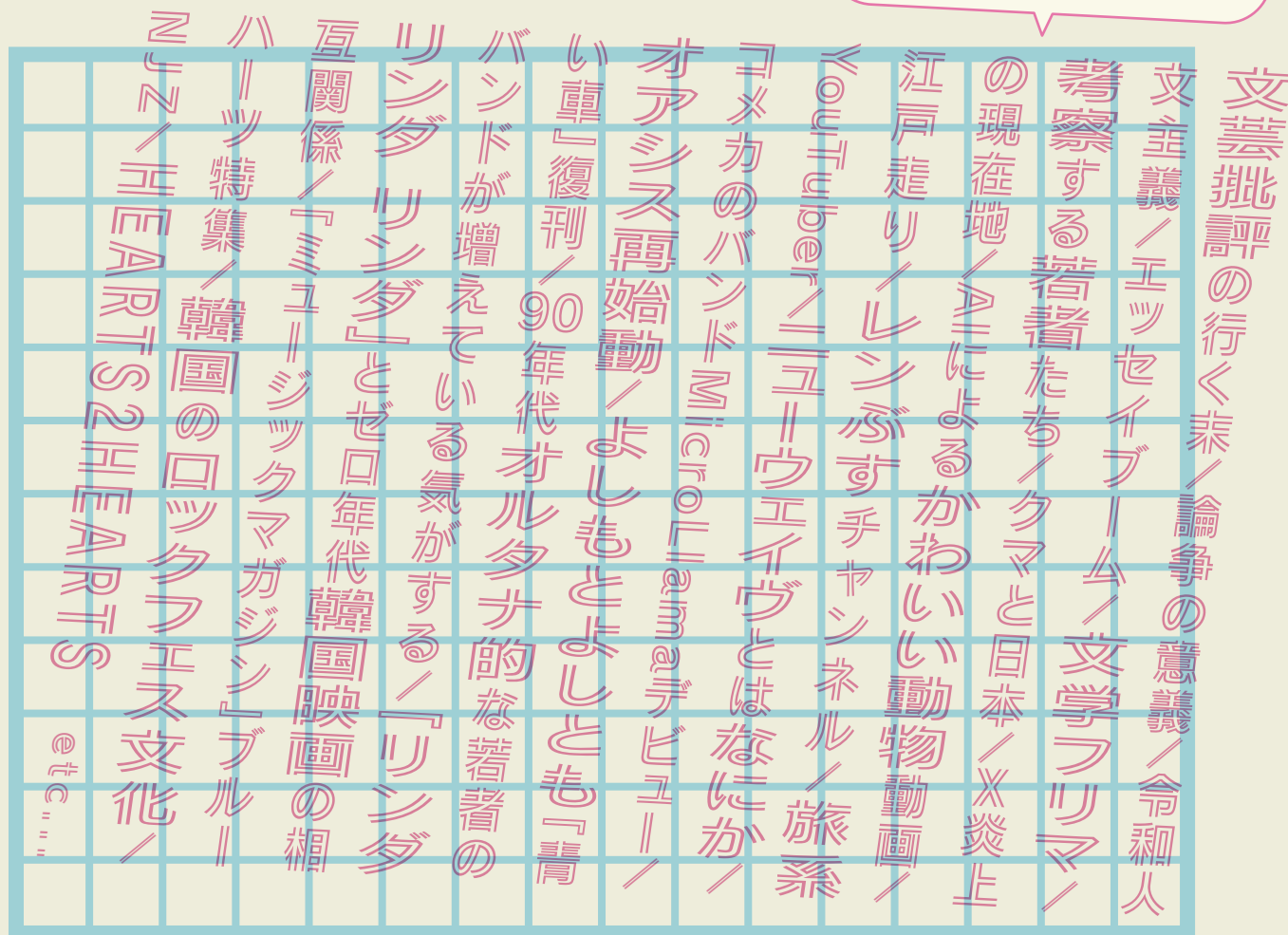
参加費

1人1,500円(小学生以下は無料)

対 象

どなたでも50人

2025年のサブカルチャー、ポップカルチャー、社会や時代の動向に関するトピックを題材に2026年の展望を語ります。



※上記はトークで取り上げるかもしれないトピックです。パンス氏(一部矢野氏)が作成しました。当日は流れに任せざっくりばらんに進行します。こちらは話題の一例としてご覧ください。



▲ TVOD(コメカ/パンス) 著
『ポスト・サブカル焼け跡派』
(百万年書房)



コメカ(左)/ライターとして、音楽・映画・漫画・お笑いなどの、ポップカルチャーに関する批評を展開。テクノポップバンド「MicroLlama」のボーカリスト。国分寺駅そばの古本屋「早春書店」店主。パンス(右)/ライター・DJ・年表好き。1968~2020年の社会/文化史をまとめた『年表・サブカルチャーと社会の50年』(百万年書房)をリリース。近現代すべてを把握するべく現在も増量中。



▲ 川口好美 著
『不幸と共存 魂の文芸批評』
(法政大学出版局)



川口好美(かわぐち・よしみ)/2016年に群像新人賞を受賞し、文芸批評家として活動をはじめ。2020年に静岡県川根本町に移住、「ほんとおもちゃ てんでんこ」を開業。2025年度より東海大学文芸創作学科教員。著書『不幸と共存 魂の文芸批評』(法政大学出版局)。



▲ 矢野利裕 著
『「国語」と出会いなおす』
(フィルムアート社)



矢野利裕(やの・としひろ)/1983年、東京都生まれ。批評、DJ、文芸・音楽を中心に評論活動をおこなう。著書に、『「国語」と出会いなおす』(フィルムアート社)、『学校するからだ』(晶文社)、『今日よりもマシな明日 文学芸能論』(講談社)、『コミックソングがJ-POPを作った』(P-VINE)など。

【申込方法】 1/24(土)12:00(正午)から静岡市生涯学習センターWebサイトにて申込受付開始(先着順)

※お申し込みにあたり会員登録をお願いします。

申込用QR▶

1/24(土)12:00~
(先着順)



【アクセス等】 ○駐車場(無料):約150台(満車の場合もあります)

○電車:JR東静岡駅より徒歩25分 ○バス:JR静岡駅より、みなみ線「小鹿営業所」下車徒歩1分、美和大谷線「競輪場入口」下車徒歩7分

お問合せ

静岡市健康文化交流館「来・て・こ」

[指定管理者 公益財団法人静岡市文化振興財団]

〒422-8021 静岡市駿河区小鹿二丁目25-45 TEL:054-202-4300

URL:https://sgc.shizuokacity.jp/